

事業名 多機能型支店による地域の買い物・交流拠点 JAおちいまばり下朝倉支店「彩咲あさくら」

事業の概要



金融店舗、生活店舗、カフェ食
堂が1フロアーに

将来にわたり住民が安心して暮らせる地域づくりに向けて高齢化が進み、近隣にスーパーマーケットがない今治市朝倉地区において、地域住民の生活に必要な生活サービス機能やコミュニティ機能の維持・確保を目的に、2016年、JAの支店を多機能型にリニューアルした。新しい支店のコンセプトは人のつながりから心のつながりを促し地域や社会に貢献できるコミュニティの活動拠点。金融店舗を商業施設内にオープンするため、管轄する財務省のさまざまな規制をクリアし、日本初、世界初の「融合型インスタブランチ」を実現した。金融店舗、生活店舗、カフェスペースを1フロアー化し、「小さな拠点」機能を発揮している。

同じ敷地内にあるJA子会社「株式会社ファーム咲創」との連携によるイベントや土日にお茶を楽しみながらの資産運用相談会、小中学生の職場体験受け入れなどJAならではの取り組みを行っている。

背景・経緯



地域のニーズに合わせた金融店舗

地域に根つき継続した事業で地域の活性化を図る

JA支店のリニューアルは、前面道路である県道の拡張工事がきっかけであった。施設の新築が検討される中、組合員の切なる要望として、金融店舗だけでなく、マーケット設置の声が多く寄せられた。そこで、新たな金融・生活店舗として、JAバンク、コンビニ、カフェ・生鮮・地産地消・営農（ファーム咲創）を融合させた新形態の店舗構想が掲げられた。

一方、JAの信用事業は収益性が重要な課題となっているが、多機能店舗にすることで集客力を高め、相乗効果を生み出せると考えた。組合員だけでなく、地域住民・老若男女・子どもからお年寄りまで集える地域の「コミュニティ・ステーション」として利用してもらえ施設を目指し、この施設を起点に地域コミュニティや地域農業の活性化を図り、ひいては地域全体の活力につなげたいとしている。

事業のポイント



地産地消の売り場



地元食材を生かした食事を提供

地域の社会課題克服に挑戦するJA支店の新しい形

近年、人口減少や金融サービスのデジタル化により金融店舗を利用する人は減少しており、店舗再編に踏み込む機能も増えている。そうした中、JAでは、組合員の利便性が低下する恐れがあるとして、金融店舗を存続させた支店のリニューアルを選択。組合員が金融店舗を訪れるのはファイナンス取引が主な目的となっているが、地域活性化の観点から業務を見直し、新しい支店の在り方に反映させた。

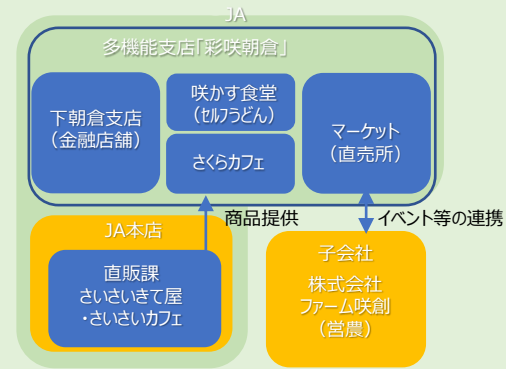
金融店舗・生活店舗のワンフロア化による相乗効果

金融店舗と生活店舗を1フロアー化し、「融合型インスタブランチ」を実現した。具体的には、金融ロビーをカフェと一体化させ、お茶を飲みながら資産の相談をするなどのサービスを展開。新たな顧客の掘り起こしや利用者との関係強化といった効果を発揮している。

生活店舗は、地産地消にこだわった品揃えを強化。同一敷地内にあるファーム咲創（営農機能）と連携を深め、店づくりや商品開発に生かし、朝倉という土地の魅力を発信する場にもなっている。

カフェや食堂があることで、組合員だけでなく地域住民にも開放された施設となっている。地域コミュニティ活動の場として定着しつつある。

実施体制・収益構造等



自立した地域経済循環を目指す

支店の全面道路である県道の拡張に伴い交通量が増加するものの、施設の魅力を高めなくては多くの人が通過してしまおうとした。そこで、盛況である近隣観光施設（タオル美術館など）から支店への誘導やJA直営農産物直売所（さいさいきて屋）で蓄積されたノウハウの活用を検討。現在は、さいさいきて屋からカフェメニューを仕入れ、品ぞろえの充実を実現している。同一敷地内にあるファーム咲創（営農）との連携による食農活動や、近隣小中学校の職場体験の受け入れという取り組みにより、新しい客層への認知度も徐々に高まっている。リニューアル前の支店利用者の約7割が50歳以上であったのに対し、子育て世代、家族連れ層の開拓にも効果を発揮しつつある。

連携する事業等



地域農業に貢献できる法人づくりをめざします。研修には積極的にチャレンジして取り組んでもらいたい。
< 浮穴 道男 代表取締役専務 >

地域農業振興と地域資源を守る

JAでは、地域生産者を中心に意見交換会を実施し、担い手や後継者がいないことで農地の保全や集落機能の維持が難しい状況にあることを把握した。そこで、2012年7月、研修事業、労働力支援、農業生産事業を担う農業生産法人「株式会社ファーム咲創」をJAの子会社として設立。地域農業振興と管内の地域資源（食・緑・水）を守ることをめざし、新たな農業経営者の育成と、優良農地の有効活用を図っている。又、地域農業者のニーズに対応した作業支援を行い、新たな営農類型の確立をめざし、安定経営に向けた農業生産に積極的に取り組んでいる。

ファーム咲創で作られた農産物は同一敷地内の直売所で販売し、消費者ニーズの把握に役立っている。

将来性・発展的展開



【日時】3/14（土）10時～15時予定
【場所】彩咲あさくら店舗前
イベント参加費は別途要する場合があります
※車庫は朝倉小学校校庭をお借りいたします

彩咲あさくら
TEL 0898-56-1077

JAならではの強みの訴求

マーケットの農産物は地元産にこだわり、差別化を図っている。

一方、生活用品については、小型店舗の特徴を生かし、地域住民のニーズに柔軟に対応しているが、ドラッグストアやスーパーマーケットと比較し価格帯で優位に立つことは難しい。高くてもここで買い物をするというメリットを訴求することが重要となっている。

金融店舗に立ち寄った後にマーケット等を回遊する利用者はまだ少数。ワンフロアー化による施設の回遊は長期的な視点で見えていく必要がある。「融合型インスタブランチ」活用の提案を具体的な形で地域住民に広報するなど工夫が求められている。

採算をとることが難しい過疎地域の店舗運営。地域貢献というJAの使命を果たしつつ、特別な用事がなくても足が向いてしまう施設自体の吸引力を高め、地域内の潜在的な購入意欲の掘り起こしが必要である。

コロナの影響で今年は中止しています

彩咲あさくら
〒799-1603 愛媛県今治市朝倉下甲558-1
TEL：0898-56-1077 FAX：0898-56-1088
年中無休（正月3日を除く）
営業時間：9時～17時30分（カフェ：9時～16時、食堂：11時～14時）